



○現在の収容鳥獣と救護状況



コノハズク

獣類	
タヌキ	オス1、メス1
ホンシュウジカ	オス1、メス1
ノウサギ	オス1
猛禽類	
トビ	11
ノスリ	5
フクロウ	5
チョウゲンボウ	2
コノハズク	1
その他の鳥類	
オオハクチョウ	29
ツバメ	3
コハクチョウ	1
マガン	1
ヒシクイ	1

現在、当センターで終生飼育されている野生鳥獣の収容状況を右上の表に示します。

平成22年の5月23日から7月30日の間にセンターに搬入された野生鳥獣はフク

ロウ(6)、スズメ(6)、ツバメ(6)、セキレイ(5)、カモシカ(4)、シジュウカラ(4)、カワセミ(4)、ヒヨドリ(4)、カラス(3)、オオルリ(3)、アナグマ(2)、オオハクチョウ、ノスリ、ヤマドリ、カルガモ、サシバ、チドリ、メジロ、アカゲラ、カワラバト、ハリオアマツバメ、アオゲラ、コゲラ、キジバト、カワラヒワ、コノハズク、アブラコウモリ、ニホンジカ、種類不明の鳥類4羽の28種68個体でした。

この時期は何とんでもヒナや幼獣の搬入件数が激増し、今回カウントした救護個体68例中、38個体(約56%)がヒナもしくは幼獣でした。また、今シーズンの特徴はフクロウの搬入が過去最多だったことで、4月に持ち込まれた個体から始まって最盛期には10羽ものフクロウの幼鳥が集まる大所帯、まるで寮生活のようでしたが今はもうほとんどが順調に巣立って行きました。

また、これまでほとんど搬入のなかったアナグマも4月の救護個体に続いて2件の救護例がありました。放獣できるか見極めるためにセンターの訓練舎で様子を見ることにしましたが・・・、あっという間に穴を掘って姿をかくしてしまいました。まさにアナグマ、盛岡近郊でも生息しているのが確認されていますが、穴の中で生活する習性からかめったに姿を見かけることはありません。結局様子を見ることはできませんでしたが、数日後には自分で基礎をくぐって退院していきました。



アナグマの脱走跡

ハリオアマツバメの翼はなぜこんなに長い？！

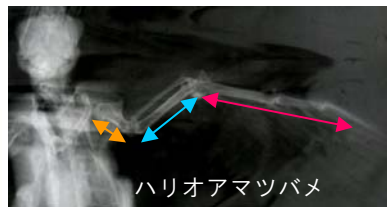
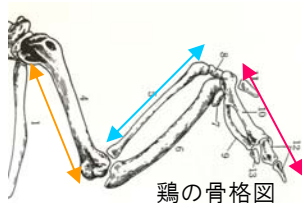


左の写真のトリを見たことがありますか？これはハリオアマツバメというアジア北東部で繁殖し、冬はニューギニアやオーストラリアで生活する渡り鳥の一種です。本州中部より北の地方で夏鳥として見られます。いつも飛び回っている鳥なので静止した姿はめったに見られません。とくにご覧ください!!

ハリオアマツバメはツバメと姿かたち、習性などいろいろな面でよく似ていますが、ハリオアマツバメはアマツバメ目アマツバメ科の鳥類で、家の軒先などに巣を作って普通に見られるツバメはスズメ目ツバメ科なので全く別の種類です。どちらも長い翼でいつも飛び回り、餌となる昆虫をクチバシでくわえるのではなく、ガマ口のように大きく開いて吸い込むようにして捕えるので顔つきもよく似ています。他によく似たトリにヨタカなどがあります。

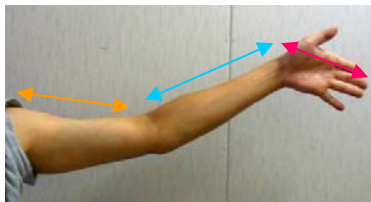
止まった状態のハリオアマツバメをみると翼の先端が極端に体の後ろまで長く伸びているのがわかります。右の写真はどちらも同じオオハクチョウです。こんなに大きくて長い翼をもつオオハクチョウでも翼はきれいにすっきりとたためるのに、ツバメの翼とオオハクチョウの翼の違いはどこにあるのでしょうか!?

この違いは翼を構成する骨の長さのバランスの違いで起こります。鶏の骨格図とハリオアマツバメのレントゲン写真を比べてみるとその差がよくわかります。



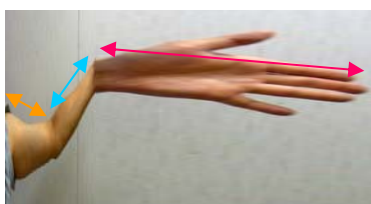
- 上腕 肩から肘の部分
- 前腕 肘から手首までの部分
- 手 手首から指先までの部分

これを人間の腕に置き換えてみるとイメージがわきやすいでしょうか？



オオハクチョウ型

オオハクチョウは上腕と前腕の骨がほかの鳥類と比べて長く、ちょうど人間と同じようなバランスになっています。これに対してハリオアマツバメは上腕骨と前腕が極端に短く、手首から先がとても大きな割合を占めています。オオハクチョウでは肘を曲げると手首から羽先までの部分はその長さの中に収まりますが、ツバメ型の翼ではどうしても手首から先の部分がはみ出してしまうのです。



ツバメ型

それではこのようにバランスが変わるとどのような違いがあるのでしょうか？手首までの腕の部分が長い翼では力強い筋肉が必要ですが、風の力をうまく利用して大きな体を空高く、遠くまで運ぶことができます。これは大型で広い場所を飛ぶ鳥に適した翼です。腕の部分が短い翼では、少ない筋肉で力強く、素早く羽ばたくことができるので、小型でスピード感ある動きを必要とするトリに適しています。

翼の形だけでなく、くちばしや足の形などを見るとそのトリの生活がある程度推測できます。身近なトリを見比べてみると、いろんな生活があることがわかりますよ！

野生動物ピックアップ

ニホンカモシカ (*Capricornis crispus*, Japanese Serow)



とても西洋的な風貌ですが日本にしか生息していない日本固有種です。かつては絶滅が危惧されるほど頭数が減少しましたが、特別天然記念物に指定されて手あつく保護されたおかげで近年は生息頭数がかなり増加しています。偶蹄目ウシ科に属し、ヤギと比較的に近い仲間です。体重は40kg前後で、オスメスの体格の差はほとんどありません。

眼の下に眼下腺という組織があり、お酢のような匂いの粘液を分泌するので体臭は寿司飯のようです。

体毛は銀白色からこげ茶色のものまで様々ですが、東北地方の日本カモシカは色白で美しいものが多いです。角はオスメスともに生えていて、生え換わることなく一生伸び続けます。



特定のナワバリを作り、生活の場所を変えることはあまりありません。近くの山でよく会うカモシカがいたら、おそらく同じカモシカでしょう。

ニホンカモシカはほかの野生動物と比べて警戒心が比較的小さいようで、道端で見つめあった経験のある人も多いと思います。特にカモシカの赤ちゃんは無警戒で、初夏に登山道などで出会った人間に付いて来てしまうことがあります。そういう時はそっと森にかえしてあげましょう。

クイズ! 僕だあれ?!



ヒント:

体重1.95gの超ミニサイズ。久慈市内の住宅の中で、どこからかはい出てきたところを救護(?)されました。アレ……かな?鳥獣保護センターでは野生の鳥類と哺乳類だけを受け入れます。このヒントで種名まで当ててください!

(答えは次のページ)

ご協力をお願い

現在、岩手県鳥獣保護センターでは傷病により救護され、野生復帰できないハクチョウが29羽も保護されていて、毎日の餌がたくさん必要な状況です。元気な野生のハクチョウたちなら空を飛んで餌を探しに行けますが、センターにいる飛べないハクチョウたちは餌をもらえなければおなかが減って死んでしまいます。

もし、クズ米などのハクチョウたちの餌になりそうなものについてお心あたりがありましたら、ぜひセンターのハクチョウたちに提供していただけるようよろしくお願いいたします。



岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時15分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見ることが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局の保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえようお願いします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

センターへのアクセス

注意事項

現在、日本国内での口蹄疫の発生に伴い鳥獣保護センターへ来場する車両は畜産研究センター正門で車両の消毒を受け、畜産研究センターの敷地内を通過して入場する必要があります。ご来場の際には事前に電話連絡をし、入場方法について確認してからお越し下さるようお願いします。

クイズの答え：

カエルの親せきみたいに見えますが……。これはコウモリの一種の赤ちゃんです。頭がどちらかわかりましたか？

運び込まれてきたときは、センターのおじちゃんもどう扱ったらいいのか困ってしまいましたが、指につかまらせると体温を感じてミルクを欲しがるようだったので、指にミルクをたらして授乳しました。

ここまで小さいと見た目での種の特定は普通できないのですが、ポイントは救護された場所にあります。岩手県に生息し、市街地の家の中に巣を作るコウモリといえば……。答えはアブラコウモリです。

今はコウモリを専門に調査しているボランティアの方のお家で、巣立ちに向けて育ててもらっているところです。

